

**沿革:**慶長6年(1601)初代森藩主久留島康親公は藩の守護神として「三島宮」を愛媛県大三島より御勧請鎮祭した。その後文化文政の頃、第八代久留島通嘉公によって境内並びに御神殿、拝殿その他の建物などが造営整備され現在の姿になった。

### 庭園の特徴

8代藩主の通嘉(みちひろ)が文政年間(1818~30年)に京都・二条城の庭師(宇治出身)だった橋本東三を招き 1832年完成させた。いずれの庭も地形を生かした庭で、形式的でないのが特徴。

- ・栖鳳楼庭園:九山八海の象徴化庭園
- ・藩主御殿庭園:豪華極まりない枯滝庭園

### 概要

①藩主御殿庭園の豪快な石組みは日本庭園史上最も特筆される。

ただ巨石を並べるのではなく、自然を超えた人工の造形であるところに共感を覚える。

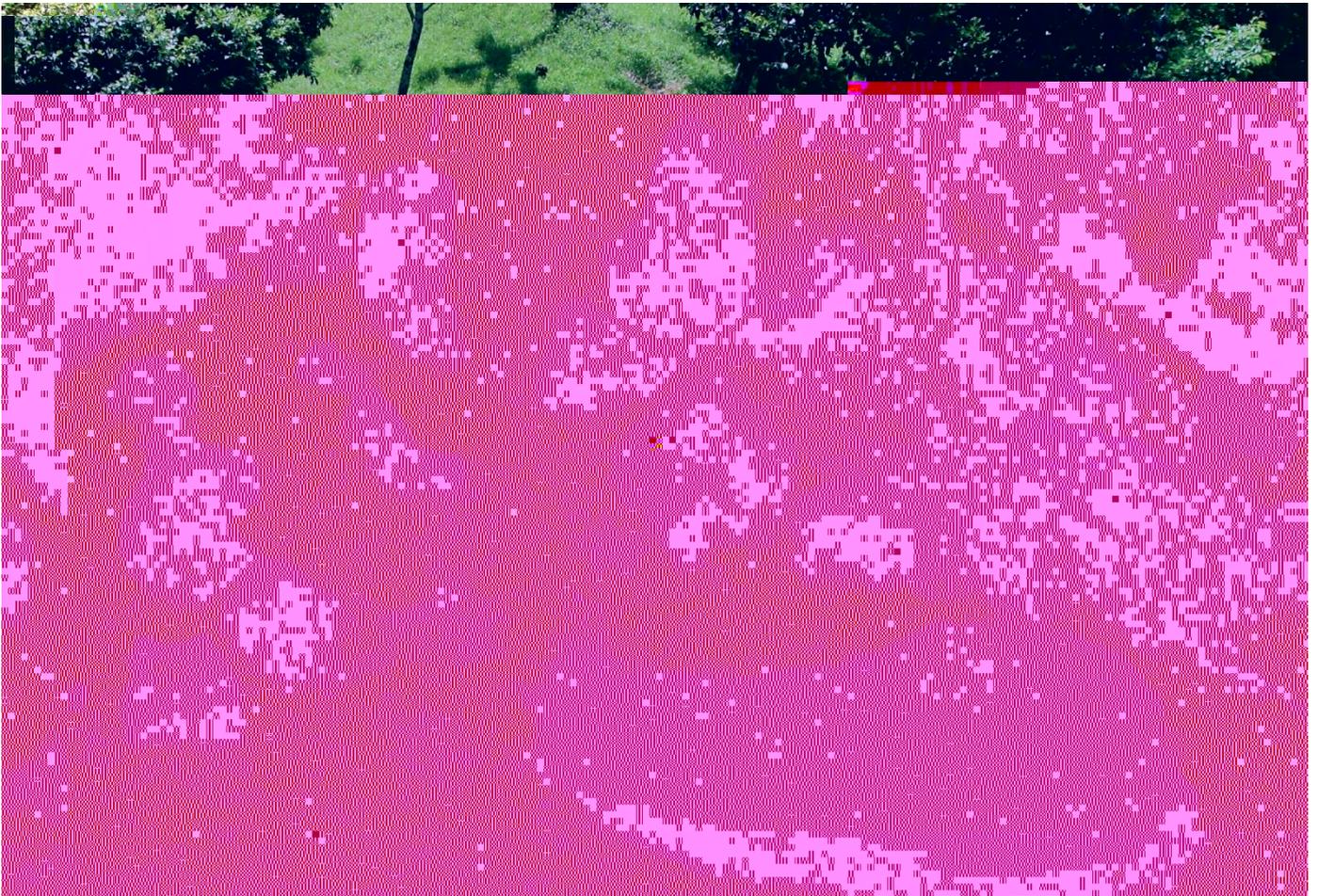
②栖鳳楼庭園は壮大な仏教哲学の「九山八海」をテーマとしつつも、作られた造形は抽象性に富んだ自由な石組に想像が膨らむ。

抽象的な造形であることは、作者が二条城の庭師であった橋本東三であるからか。

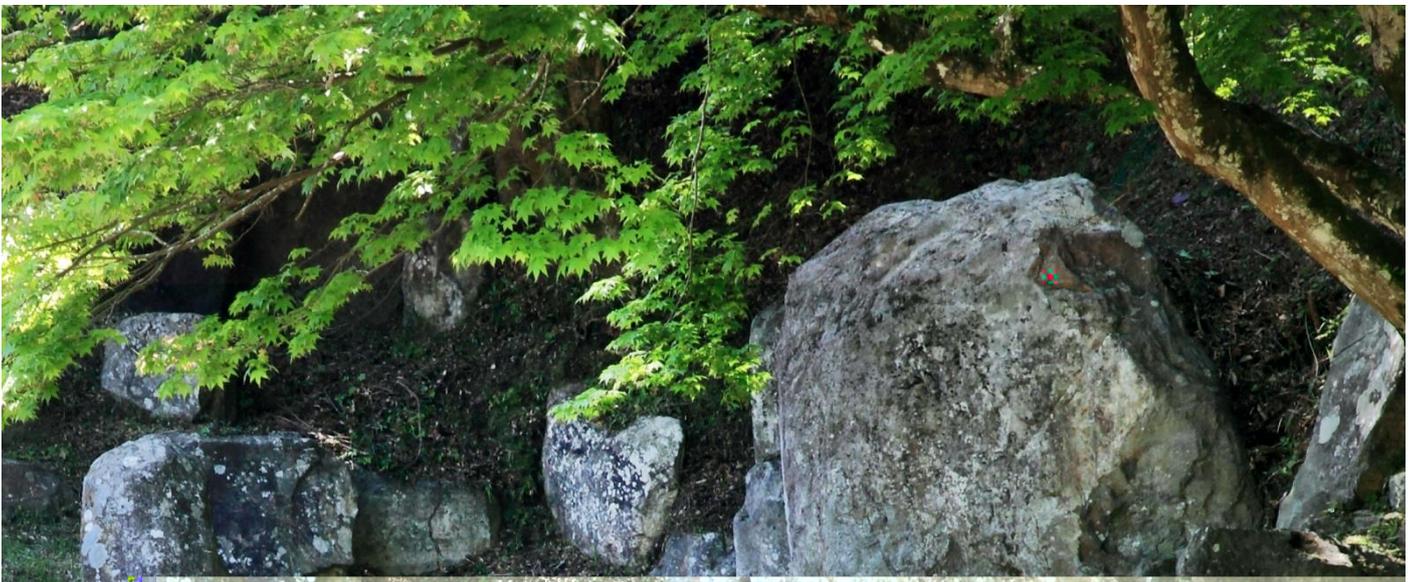
③壮大なテーマが活きているのは「借景」を活かしたからだ。



**藩主御殿庭園:**山畔と溪谷に組まれた雄大な庭。



**栖鳳楼庭園:**壮大なテーマである「九山八海」を象徴した造形だ。中央の四角錐型の石はカイルス山を示し、石組みは螺旋形だ。



藩主御殿庭園：豪快無比の石組は来島水軍の末裔の気概

栖鳳楼より借景庭園を望む



石組中心部

**栖鳳楼庭園:**

大岩扇山を背景とした借景の庭であるが、大自然の造形と人工の造形の好対照により人工の造形美が際立つ。